

## 第4学年 道徳科学習指導案

### 1 主題名 誰に対しても分け隔てなく

C 公正、公平

資料名「同じ仲間だから」 (出典：文部科学省「わたしたちの道徳」)

### 2 主題設定の理由

#### ○ 児童の実態について

本学級の児童は、誰にでも男女分け隔てなく接しなければならないということは分かっている児童が多い。また、誰に対しても、「駄目なことは、駄目」としっかりと行うことのできる児童もいる。しかし、友達によって自分の考えを主張できない児童もいる。また、勝負ごとになると公正、公平な態度をとることが難しくなったり、心無い言葉で傷つけ、友達のよさを素直に認めることができなかつたりする児童も見られる。そこで、不公平な態度は誰もがもつ人間の弱さが起因していることに気付かせるとともに、その弱さを乗り越えるためにはどうしたらよいか考えさせる必要がある。

#### ○ ねらいとする価値について

公正、公平とは、誰にでも分け隔てなく接することができる心を基盤として、個の状況や立場を考慮した適切な態度であると考え。これは、差別や偏見のない望ましい集団づくりに欠かせない態度である。しかし、人間は差別や偏見をしてしまうこともある。それは、自分が不利な立場になることを嫌ったり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱いたりする弱さをもっているからだと考え。これは、人間関係や集団生活に支障をきたし、いじめなどにもつながっていく。このことから、公正、公平な態度で接することは、社会正義の実現のために大切なことであると考え。

#### ○ 資料について

本資料は「同じ仲間だから」は、運動が苦手な光夫が仲間はずれになりそうな状況になり、主人公のとも子がどうすればよいか迷う。そのとき、転校した同級生から届いた手紙に「言葉が少し違うという理由で仲間はずれになり、とてもつらい」と書かれていたことを思い出す。そして、「光夫も同じ2組の仲間だから、外すべきではない」と友達に断言し、すっきりするという話である。

導入では、資料の概要を説明してから読むことで、内容を素早く捉え、本時の課題を明確につかむことができるようにする。展開では、葛藤から望ましい姿を選ぶことができた「とも子」について考えさせることで、誰に対しても分け隔てなく、公正、公平に接することの大切さを感じ取らせる。そして、自分達の経験や学習全体を振り返ることで、公正、公平に接することのよさに気付かせる。終末では、公正、公平な態度で仲間を大切にするという視点で自分達の生活をふり返り、まとめる。

### 3 本時 平成29年6月16日(金) 5校時 於4年1組教室

#### (1) ねらい

とも子の言動の変化を考えるを通して、私心にとらわれず誰にでも分け隔てなく接することの大切さを感じ取り、公正、公平に接しようとする態度を育てる。

#### (2) 準備

教師…場面絵 児童…道徳ノート

(3) 展開

	学習活動・予想される児童の考え	指導上の留意点 (●評価)
導入	1 資料の概要を聞き、登場人物の背景を知る。	○ 登場人物の紹介をし、資料を読むことで、素早く内容を捉え、本時の価値追求場面を明確につかむことができるようにする。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     どんな時も仲間を大切にするために、大切なことを考えよう。                 </div>	
	2 資料「同じ仲間だから」を読み、話し合う。 (1) 光夫を練習に参加させるべきかどうかで迷うとも子の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     とも子が返事に困ってしまったのは、どんなことを考えたからでしょう。                 </div> <p>【参加させた方がいい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光夫さんがかわいそうだ。</li> <li>・光夫さんなりに頑張っている。</li> <li>・学級のみんなでやらないと意味がない。</li> </ul> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p>【休ませた方がいい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光夫さんを入れると負けてしまう。</li> <li>・光夫さんが自分から休めばいいのに。</li> <li>・光夫さんが参加しないほうが、みんな喜ぶのでは。</li> </ul> (2) 光夫も一緒に参加させた方がいいと思いはじめたとも子の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     光夫さんも一緒に参加させた方がいいと、とも子が思ったのは、どんなことを考えたからでしょう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間外れにすると光夫さんは悲しむ。</li> <li>・光夫さんだって、頑張っている。</li> <li>・仲間はずれはよくない。</li> <li>・学級のみんなで取り組むべきだ。</li> </ul> (3) どんな時も仲間を大切にするために大切なことを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     どんな時も仲間を大切にするために大切なことは何でしょう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にでも分け隔てなく接する。</li> <li>・友達の気持ちを考える。</li> <li>・正しいと思ったことは、伝える。</li> </ul>	○ 「光夫を休ませた方がいい」という不公平な考えは、よくないと分かっているも、自分の立場が不利になるような状況では、必ずしも適切な態度をとることができないこと、それは誰もがもつ弱さであることに気付かせる。 ○ 葛藤する二つの考えについてネームカードで自分の立場を明確にすることで、道徳ノートに自分の考えを書く視点をもたせる。  ○ とも子が「はっ」とした場面を問うことで、仲良しのよし子と光夫が同じ状況であることに気付かせ、とも子の気持ちに共感できるようにさせる。  ○ 葛藤からのぞましい姿を選ぶことができた「とも子」について考えさせることで、公正、公平に接することが大切であることに気付かせる。 ● 公正、公平に接しようとする姿を見つけることができる。
	3 自分の生活を振り返り、公正・公平に接することができたことについて話し合う。	○ 分け隔てなく友達と接することができたことなどを出し合うことで、公正・公平に接することのよさを感じさせる。
	終末	4 本時の学習のまとめをする。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- とも子的心情の変化を考えることを軸に授業を展開したことで、誰に対しても分け隔てなく接することや、協力することの大切さを感じさせることができた。
- ネームカードを用いてそれぞれの考えの立場や迷いを視覚的に示し、様々な立場の考えを交流することにより、友達のことを取り入れて再思考することができ、新しい考えを作り出すなどより深い思考を促すことができた。

### (2) 課題

- ネームカードで自分の考えの立場を示したが、話し合い後に、ネームカードを移動する時間を確保することができなかった。ネームカードを移動することで、友達のことを聞いて話し合うよさや、自分の考えの深まりに気付くことができたと思う。